道路反射鏡（カーブミラー）設置基準

令和6年 11 月

大阪市建設局

1．カーブミラーの「設置を検討する・設置を検討しない」、「設置できない」を判断する基準について

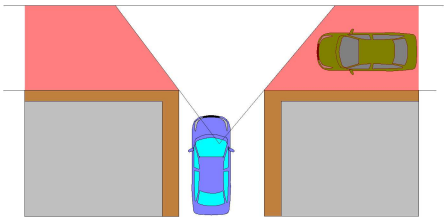
（1） 交差点等における一般的な判断基準

建設局の工営所が管理する道路において、カーブミラーの設置を検討する・設置を検討しない場合の一般的な判断基準は以下の図のとおりです。

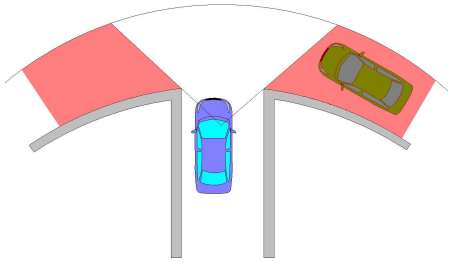
ただし、建設局の工営所が管理する道路にカーブミラーを設置するスペースがない場合及び設置することで通行の支障となる場合や、沿道のみなさまの同意が得られない場合は、カーブミラーを設置することができないことがあります。

・カーブミラーの設置を検討する場合（他の交通安全対策も含めて検討する）

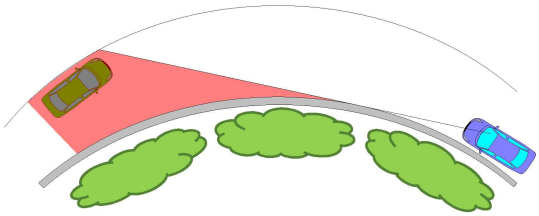
ア．民地内の塀や垣根等により見通しが確保できない場合



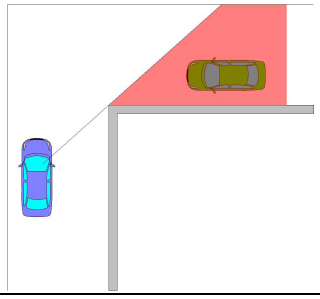
イ．内側へのカーブで見通しが確保できない場合



ウ．急カーブや坂道で見通しが確保できない場合



エ．L 字型道路で見通しが確保できない場合

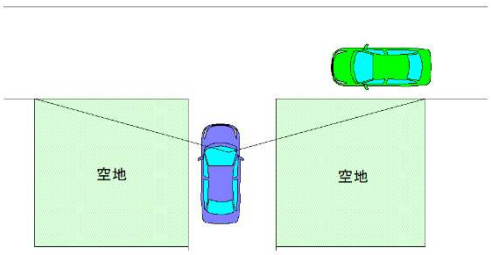


上の図は設置を検討する場合の前提条件のイメージです。

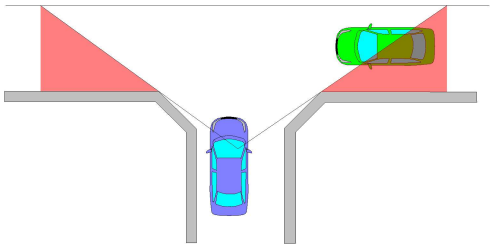
現地環境が図に合致している場合においても、必ずしも設置をお約束するものではありません。

・カーブミラーの設置を検討しない場合（見通しが確保されているため他の交通安全対策を検討する）

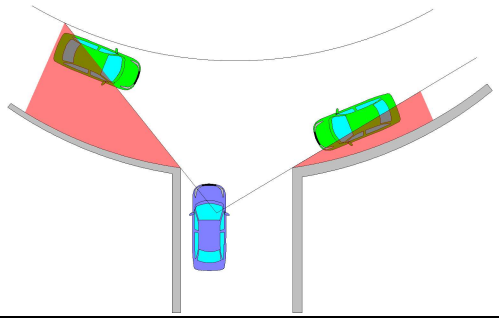
ア．空地等により見通しが確保されている場合



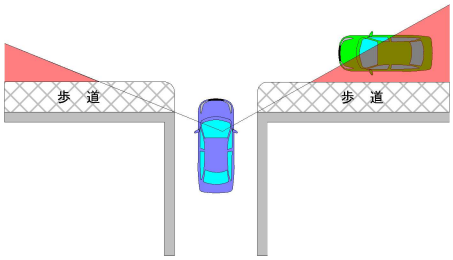
イ．隅切りがあり見通しが確保されている場合



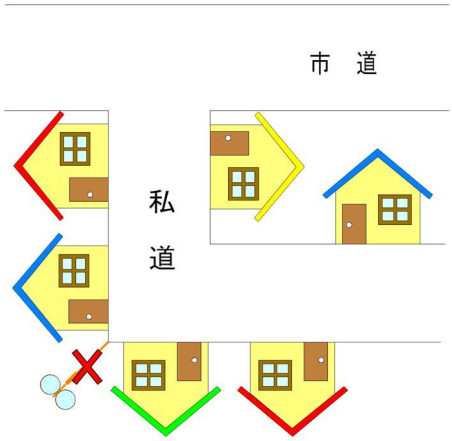
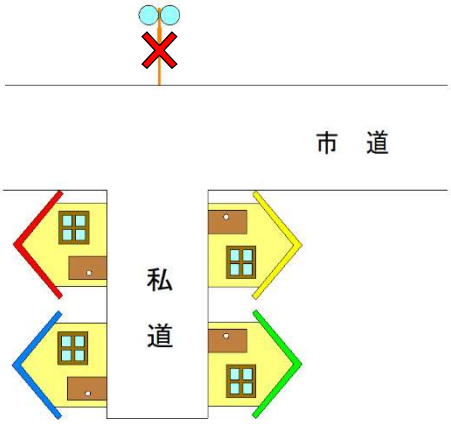
ウ．外側へのカーブで見通しが確保されている場合



エ．進入する道路側に歩道等があり一時停止や徐行をして交差点内に進むことにより、見通しが確保できる場合



（2） カーブミラーを設置できない場所

ア．私道（民有地）内	
イ．個人宅や事業所、施設等からの出入口	
ウ．建設局の工営所が管理する道路と行き止まり私道の交差点	

2. 設置後のカーブミラーについて

（1）カーブミラーの機能が確保できる軽微な損傷、破損に際しては、角度調整や部品の交換を行います。

（2）カーブミラーが著しい劣化や破損した場合、本基準に基づいて、改めて更新の要否を判断します。